



## 塩子観音 30年ぶりの御開帳



塩子観音堂



多くの人々が参拝に訪れました



地域の方々の尽力により30年ぶりの御開帳となりました



昭和30年頃の観音堂（中央一段高いお堂）。左は塩田小学校

2月18日、塩子観音堂でおよそ30年ぶりの御開帳がおこなわれ、多くの参拝客が訪れました。

## ◆塩子観音と大沢寺

塩子観音堂は、文書館の南の林の中に建つお堂です。旧塩田小学校があったこの場所には、戦国時代末期の文禄3年（1594）、常福寺14世の大管上人によって開基された浄土宗寺院、宝池山医徳院大沢寺がありました（開基帳）。大沢寺は瓜連常福寺の末寺でしたが、弘化年間（1844—1848）頃には寺勢が衰え部垂村の西方寺が兼務することとなり、明治2年（1869）に廃寺になったといわれています（塩子観音縁起）。本堂や客殿など境内に複数あった堂宇のうち観音堂だけが残り、今に続いています。

明治4年の「北塩子村社寺反別絵図」（坏将裕家文書）によれば、大沢寺はおよそ50メートル四方の広さで、墓地以外の建物の跡は当時すでに畑になっていたことがわかります。大沢寺が廃寺となったあとは、塩田村、北塩子区により管理されてきました。

塩子観音は、延命安産子育ての観音様として、毎年2月18日の縁日には昔から多くの人がお参りに訪れました。戦前は露天商が参道に並び、多くの人出があったそうです。

現在も地域の人々により毎年のお祭りが行われていますが、今年はお堂の再建以来、およそ30年ぶりの御開帳となり、久しぶりに多くの参拝客でにぎわいました。

## ◆再建へ

現在のお堂よりも一回り大きかったという以前のお堂は茅葺き屋根で、自然石の礎石を使った、昔ながらの建物だったそうです。そこは信仰の空間であると同時に、大沢寺時代からの墓地を有する場所でもあったため、土葬の際の棺を運ぶのに使用した輿（棺を載せて人がかつぐ道具）など葬送道具の収納場所の役割も果たし、地域共用の倉庫としても機能していました。

その後、茅葺き屋根の劣化が進んだため、昭和61年12月に現在のお堂に建て替えられました。

大沢寺時代の本尊は阿弥陀如来と考えられますが、現在は失われています。また、大沢寺の廃寺後、観音堂になってからの本尊と思われる観音立像も、昭和61年の移転の前後に失われたようです（「塩子観音縁起」では聖観音としています）。今は江戸時代の寺院統制や明治の廃仏毀釈の際に廃寺となった近在の寺社から集められたと思われる小さな仏像が引き継がれ、大切に祀られています。

【参考文献】坏夏男「塩子観音縁起」昭和61年

写真右下は『常陸大宮市立塩田小学校閉校記念誌』より転載

※次号からは町村合併の経緯の続編を掲載します。

## ■問い合わせ■

常陸大宮市文書館 ☎ 52-0571